

統合診療支援システムを活用した レポート既読管理

2020年2月7日

富士フイルムメディカルITソリューションズ株式会社
執行役員 第一事業本部長 平川 毅

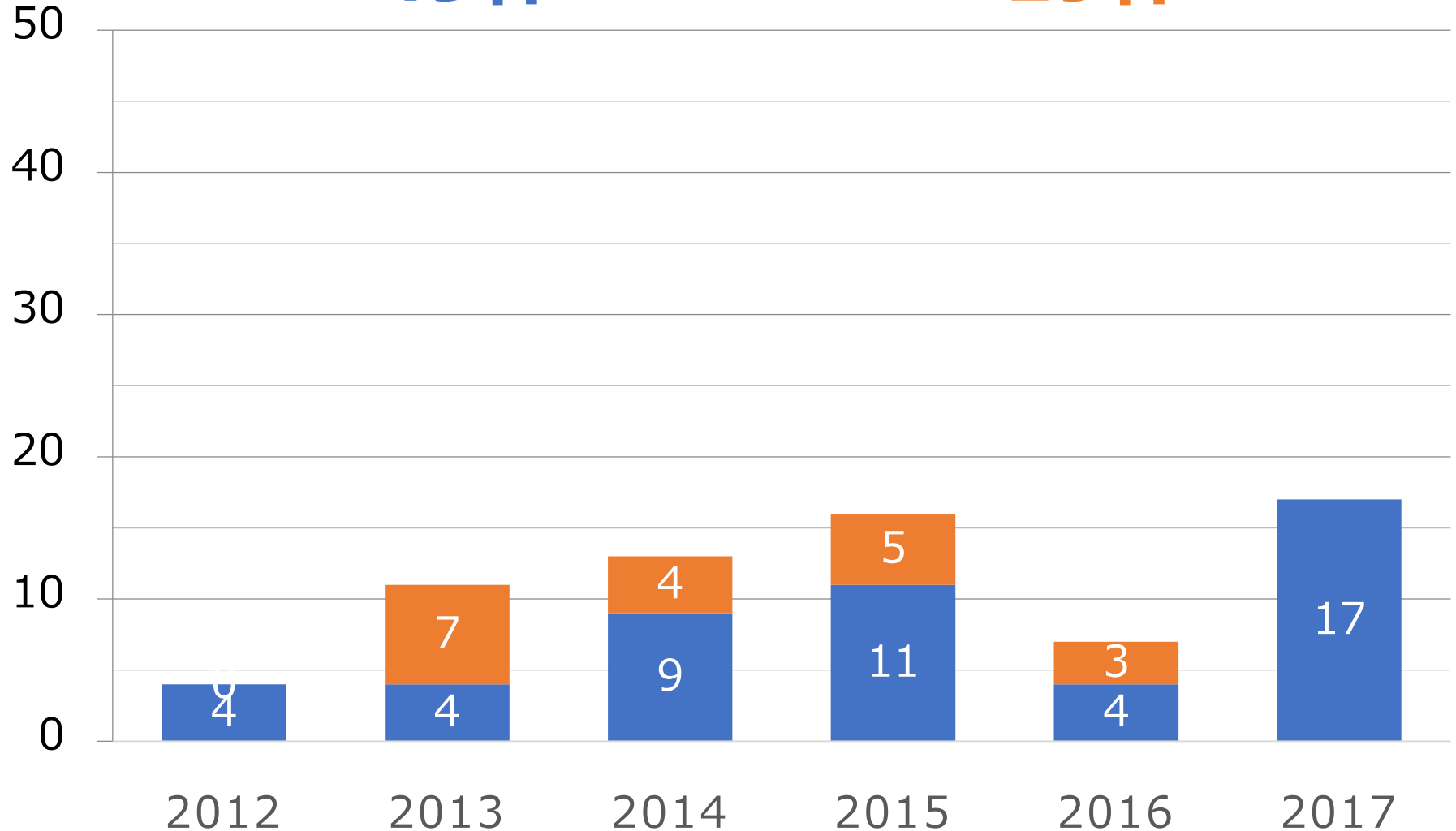
■ 画像診断報告書の確認不足

■ 病理診断報告書の確認忘れ

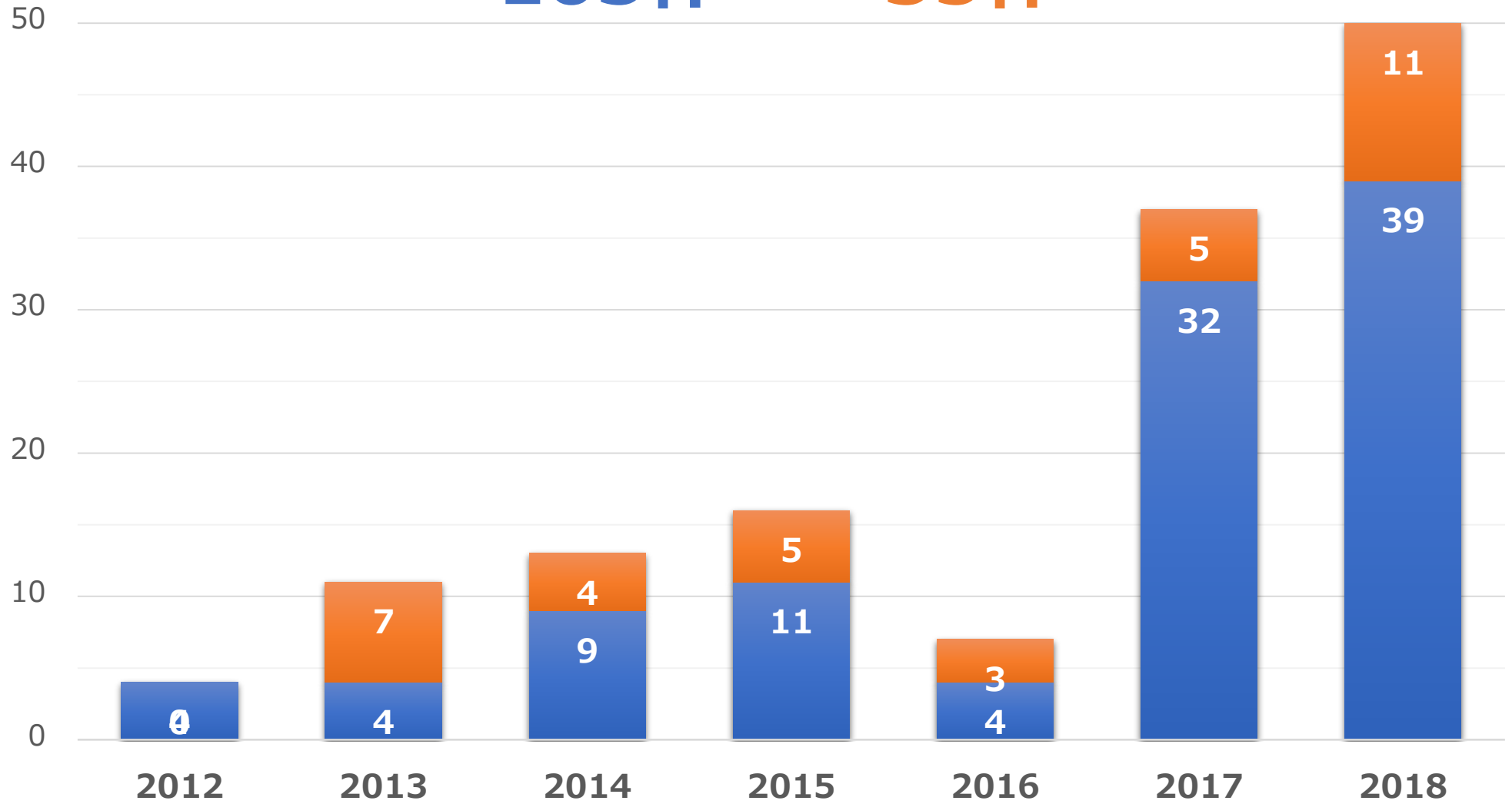
49件

19件

※2017年の病理診断報告書の
確認忘れは現時点で未発表



■ 画像診断報告書 ■ 病理診断報告書
103件 **35件**



厚労省からの再周知：2018年6月14日

事 務 連 絡

平成 30 年 6 月 14 日

各

都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区

 衛生主管部（局）御中

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室

画像診断報告書等の確認不足に関する医療安全対策について
(再周知のお願い)

医療機関における画像診断報告書等の確認不足を防止するため、これまで、「画像診断報告書等の確認不足に関する医療安全対策について」(平成 29 年 11 月 10 日付け医政局総務課医療安全推進室事務連絡。以下「平成 29 年事務連絡」という。)において注意喚起を図ってきたところです。

その後、医療法施行規則(昭和 23 年厚生省令第 50 号)第 12 条に基づく医療事故情報収集等事業において、公益財団法人日本医療機能評価機構から「画像診断報告書の確認不足(第 2 報)」(医療安全情報 No. 138、平成 30 年 5 月、別添)が公表されました。一方で、依然として同種の事案が続いております。

つきましては、画像診断報告書等の確認不足対策を広く定着するため、別添及び平成 29 年事務連絡の内容を御確認の上、貴管下医療機関に対し、改めて周知徹底をお願いいたします。

なお、別添については、公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページ <http://www.med-safe.jp/contents/info/index.html> に掲載されていますことを申し添えます。

厚労省からの再周知：2018年6月14日 添付ファイル

別添
医療事故情報収集等事業

公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

画像診断報告書の確認不足(第2報)

No.138 2018年5月

「画像診断報告書の確認不足」医療安全情報No.62(2012年2月)を再取り上げ

医療事故情報収集等事業
医療安全情報

No.138 2018年5月

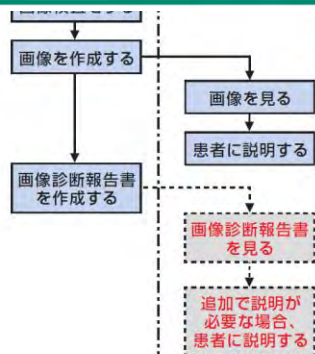
画像診断報告書の確認不足(第2報)

事例1

外来診察日に肝内胆管癌術後のフォローアップでCT検査を行った。CT検査後、主治医は画像を見て患者に説明し、その後画像診断報告書の確認を忘れた。5ヶ月後、再度CT検査を行った。放射線科医師が過去のCT画像と比較しようとしたところ、5ヶ月前の画像診断報告書が未読であり、肺癌疑いと記載されていることに気付き、主治医に連絡した。

事例が発生した医療機関の取り組み

- ・画像診断報告書を確認してから患者に説明する。
- ・画像診断報告書が未読の場合に気付ける仕組みを構築する。



医療事故情報収集等事業

画像診断報告書を見る習慣がなかった

CT検査とMRI検査を同時期に行い、MRI検査の結果で診断が確定できたため、CT検査の画像診断報告書を見なかった

専門領域の読影に自信があり、画像診断報告書を見なかった

前年の同月の画像診断報告書を当日の報告書だと誤認した

◆37件のうち、36件がCT検査の事例です。

業務工程を確立しましょう。

※この医療安全情報は、医療事故情報収集等事業(厚生労働省補助事業)において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。 <http://www.med-safe.jp/>

※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。

※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。



公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町1-4-17 東洋ビル

電話：03-5217-0252(直通) FAX：03-5217-0253(直通)

<http://www.med-safe.jp/>

主な背景・要因

- ① 主治医が検査の主たる目的に注意が向いた
- ② 放射線科専門医による画像診断報告書の作成が、主治医が画像を見て診断した後であったため、確認が十分でなかった
- ③ 診療科間の連携不足があった
- ④ システムにより確認できる仕組みがなかった
- ⑤ システムによる仕組みはあったが分かり難かった
- ⑥ システムの不具合があった

医療事故情報収集等事業 第40回報告書(2015年3月26日発行)より

主な背景・要因①

1. 主治医は検査の主たる目的に注意が向いた

- ・領域が専門細分化され、自分の専門領域の部分しか診療しなかった。
- ・他の臓器の異常を指摘されることを想定していなかった。
- ・CTの結果、発熱の原因がわかり、その後の治療で症状は改善したため、撮影3日後に出た読影コメントは見えていなかった。
- ・撮影範囲が広範囲に及んで発見されたため、患者に症状がなく主治医も注意が払いにくかった。
- ・診療科の専門部位については詳しく確認しているが、読影結果を、いつ、誰が確認するか曖昧になることがある。

2. 放射線科専門医による画像診断報告書の作成が、主治医が画像を見て診断した後であったため、確認が十分でなかった

- ・他科のコンサルト結果の画像診断報告書の確認を行う習慣が無かった。
- ・検査や読影を依頼していたが、依頼していたことを忘れていた。
- ・外来診察中にCTレポートの登録は間に合わないが、診察後や次回外来受診時に放射線科読影医のレポートを確認する、ということをしていなかった。
- ・緊急でCTを依頼し、同日緊急手術を行うような症例の場合、放射線科に読影依頼はするが、その結果を待たずに、治療・手術を行うことが多く、診断報告書の確認が不十分であった。

3. 診療科間の連携不足があった

- ・他科のカルテは見ない医師が多く、診療科間の連携不足があった。
- ・画像診断の情報が、臨床側に伝わらなかった。
- ・CTで検査目的と違う所見が認められるなど異常所見があった場合は、放射線科読影医から担当医に電話連絡を行う取り決めであったが、今回の事例では機能しなかった。

主な背景・要因②

4.システムにより確認できる仕組みがなかった

- ・未読レポートがあることを知らせるシステムがなかった。
- ・術前検査を確認したことを、当日あるいは後日確認できるシステムがなかった。
- ・異常読影結果を関係者に通知する（パニック・アラート）システムが構築されていない。
- ・検査結果（CT読影報告）が既読であるかどうかチェック体制がない。
- ・システム上医療端末画面にて読影結果の未読・既読が表示されない。

5.システムによる仕組みはあったが判り難かった

- ・電子カルテシステム上、院内紹介状が記載されていることが判り難い構造である。

6.システムの不具合があった

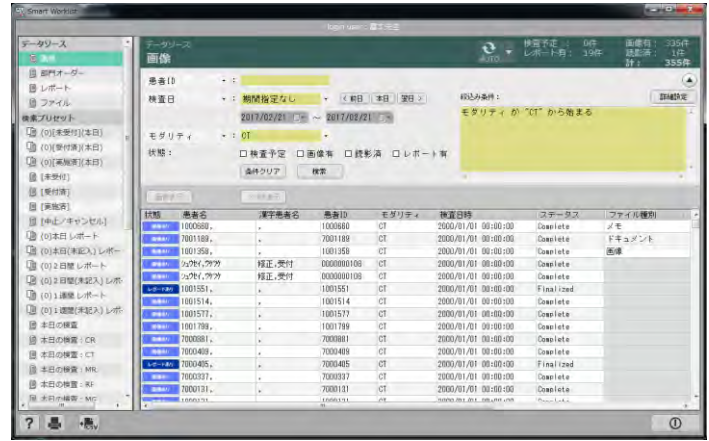
- ・当院では放射線科のレポートが登録されると、ポップアップで依頼した医師に通知されるシステムがあるが、このシステムのエラーが起き、撮像3日後に承認されたCTレポートの登録通知が依頼医に送られていなかった。

7.その他

- ・夜間救急外来で胸部CT検査を実施したことを、入院した循環器科の医師が把握しておらず、CT検査結果を見ていなかった。

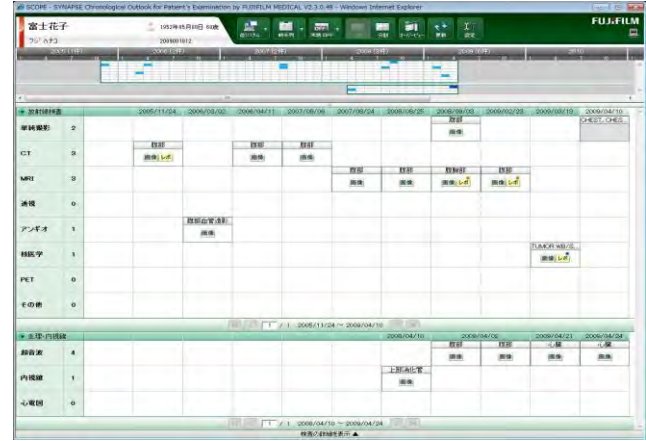
自社の課題

先行して既読管理機能を実装していた製品



放射線レポートシステム
Result Manager

2014年に既読管理機能を商品化しているが、自システム内のレポートの既読管理のみを行う簡易な機能であった。



検査画像統合システム
SYNAPSE SCOPE

2015年に既読管理機能を商品化しており、他システムのデータも合わせて既読管理が行えるようになったが、以下の不満点があった。

- SCOPEを見に行かなければ、未読があることに気が付かない。
- 重要なレポートとそれ以外のレポートの区別がなく、全てのレポートが同じように扱われる。

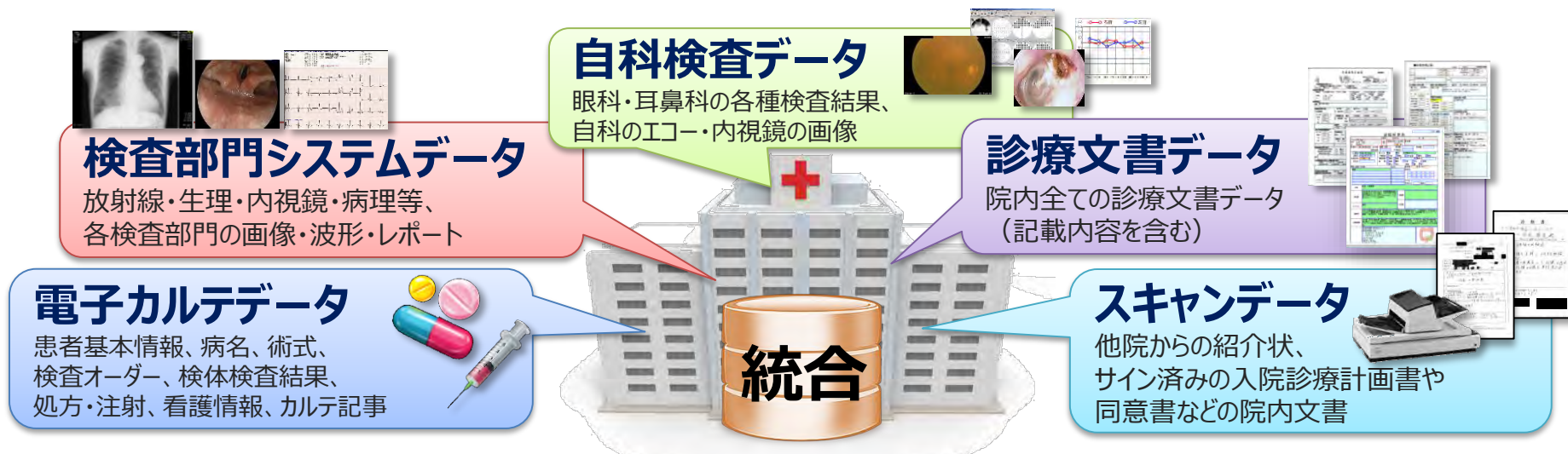
理想的な既読管理機能実装に向けた要件

- 放射線レポートだけでなく、病理・内視鏡・生理検査など各種のレポートを統合的に管理できること
- 自分がオーダーした検査だけでなく、他の医師がオーダーした検査の未読/既読状況も把握できること
- システムを起動しなくても、未読レポートの存在に気付くことができること
- 重要レポートのステータスを付与できること
- 院内全体の未読状況の把握や、いつ・誰が既読化したかを後から確認できること。

さらに..

- 働き方改革に向け、効率的な既読化が行えること。
- 現状の運用を変えなくても、既読管理を行えること

統合診療支援システムのコンセプト



- ・ 院内のあらゆる診療情報を漏れなく統合
- ・ 統合したデータを様々な目的に応じて活用可能に

統合した診療データの活用目的

① 医療の質・ 安全性の向上

- ・ チーム医療の推進
- ・ 業務の標準化支援
- ・ 診療の進捗状況の把握
- ・ 統合された診療データ参照
- ・ カンファレンス支援
- ・ インフォームドコンセント支援

② 業務の 効率化・省力化

- ・ 文書作成時の負荷軽減
- ・ 診療情報参照/共有の効率化
- ・ チーム介入患者検索の効率化
- ・ 自科検査ファイリングの円滑化
- ・ スキャン業務の効率化

③ 経営支援

- ・ 保険診療の担保
- ・ 病院ガバナンスの状況評価
- ・ クリニカルインディケータの提示
- ・ 経営的な統計処理

④ 臨床研究支援

- ・ 臨床データの検索/出力
- ・ 医学的な統計処理

CITA Clinical Finder

統合した診療情報を「ガジェット」という単位で表示し、
それらを組み合わせて
利用者や診療シーンに合わせた診療データの活用が可能

This screenshot displays the CITA Clinical Finder interface with several widgets highlighted by orange text labels:

- 統計情報** (Statistical Information): Located in the top-left panel, showing various data charts and reports.
- スケジュール** (Schedule): A calendar-style widget in the middle-left panel showing patient appointments.
- 患者一覧** (Patient List): A large central table listing patient information, including names, IDs, and medical history.
- 院内メール** (In-hospital Email): A list of messages in the bottom-left panel.

This screenshot shows a detailed view of a patient's medical data and diagnostic results, with orange text labels highlighting specific components:

- カルテ記事** (Medical Record Article): A text-based record of the patient's medical history.
- 一般撮影** (General Photography): A chest X-ray image.
- 心電図** (ECG): A heart rate and rhythm monitoring graph.
- 超音波** (Ultrasound): An ultrasound image of an internal organ.
- 処方** (Prescription): A list of prescribed medications and their dosages.
- 検体検査** (Specimen Examination): Laboratory test results for various samples.
- 文書** (Documents): A list of medical documents and reports.
- 内視鏡** (Endoscopy): An endoscopic image showing internal organs.



CITA Clinical Finder概要



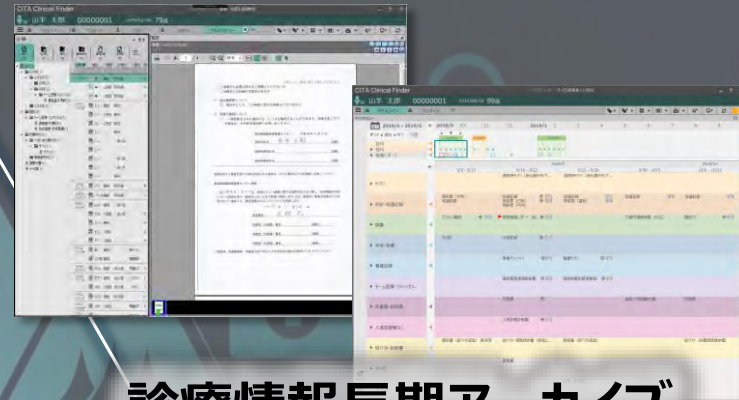
患者ポータル

電子カルテの各種情報や検査結果・文書等の診療情報を一元管理し、利用者や診療シーンに合わせた画面展開で、診療を支援します。

患者ID	氏名	年齢	性別	病棟	病室	入院日	手術予定	担当医師	担当看護師	状態
1	藤田石部	32	♀	37.5						
2	若本二	32	♀	37.5						
3	久島山崎江子	32	♀	37.5						
4	前田文恵	32	♀	37.5						
5	佐々木拓郎	32	♂	37.5						
6	清水麻衣	32	♀	37.5						
7	熊崎好か	32	♀	37.5						
8	夢田太郎	32	♂	37.5						
9	永田直也	32	♂	37.5						

クリニカルフロー

入院患者や手術予定患者など、任意の患者一覧を表示し、ケアプロセスを可視化いたします。診療文書や同意書の量的点検や、検査結果の効率的な確認、チーム医療の支援や、入院業務の支援など、幅広く活用いただけます。



診療情報長期アーカイブ

ドキュメント形式の診療情報を一元管理し、長期保存を可能とします。スキャン文書は、タイムスタンプ・長期署名に対応し、原本として管理する事ができます。



レポート既読管理

放射線・病理・内視鏡などの各種検査レポートを統合的に管理し、見落としを防止します。

レポートの既読管理機能

統合診療支援プラットフォーム CITA Clinical Finder : 既読管理

文字サイズ 小 中 大

トップ 機能・特長 **既読管理**

統合診療支援プラットフォーム



レポート既読管理ソリューションで医療安全を支援。

CITA Clinical Finderのレポート既読管理ソリューションは、放射線・生理・内視鏡・病理などすべての検査レポートを対象として主治医を中心に多職種協働でレポートの見落としを防止します。

- 統合システムだから放射線・生理・内視鏡・病理など全ての画像・レポートの未読を管理
- 主治医だけでなく、患者様に関連する全てのスタッフでサポート
- CITA を起動しなくても、一定期間経過した未読患者や重要レポートの到着をお知らせ

臨床フロー
(受け持ち患者の一覧で未読を確認)



タイムライン
(患者単位の未読チェック)



未読メッセージ



未読レポート一覧



既読管理機能を
搭載したV2.1を
リリース!

5つの特長

① 各種検査の未読を一元管理

放射線

病理 内視鏡

読影医	患者	未読情報	検査種別	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日
富士 肝臓	2017_LIVE...	未読(自分): 4件 未読(自科): 2件 未読(他科): 1件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2017/07/12
富士 一郎(肺...)	201400101	未読(自分): 2件 未読(自科): 2件 未読(他科): 2件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2017/07/12
富士 二郎(肝...)	201400201	未読(自分): 0件 未読(自科): 1件 未読(他科): 0件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2017/07/12
富士 三郎(心...)	201400301	未読(自分): 0件 未読(自科): 0件 未読(他科): 1件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2017/07/12
山羊 太郎	00000001	未読(自分): 0件 未読(自科): 0件 未読(他科): 0件					手術予定日: 2016/04/17
富士 一子	2009001071	未読(自分): 0件 未読(自科): 0件 未読(他科): 0件					手術予定日: 2016/04/17
富士 太郎	2009001034	未読(自分): 0件 未読(自科): 0件 未読(他科): 1件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2016/04/17
富士 花子(大腿...)	2009001012	未読(自分): 0件 未読(自科): 1件 未読(他科): 0件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2016/04/17
富士 孝司	2009004001	未読(自分): 0件 未読(自科): 0件 未読(他科): 0件	一般撮影 CT MRI PET アンギオ	実施済	病理結果	内視鏡検査	手術予定日: 2016/04/17

② 担当患者の未読を一括で確認 効率的に既読化

未読	改版	重要	
			自分が依頼したデータ
			自科が依頼したデータ
			他科が依頼したデータ

タイムライン画面での患者個人での未読状態の表示

CITA Clinical Finder

富士 一郎 (肺がん) 201400101 1944/01/01 74歳

タイムライン

2013/04 2013/05 2013/06 2013/07 2013/08 2013/09 2013/10 2013/11 2013/12 2014/01 2014/02 2014/03 2014/04

2014/01/28 ~ 2014/02/19

薬剤名	単位	14/01/28	14/01/29	14/01/30	14/02/17	14/02/18	14/02/19
ボルタレンサ素25mg	個	1個×8回分		1個×8回分	1個×8回分	1個×8回分	1個×8回分
ボルタレン錠25mg	錠	1錠×8回分		1錠×8回分	1錠×8回分	1錠×8回分	1錠×8回分
アロピ錠7.5mg	錠	1錠×1回分		1錠×1回分	1錠×1回分		1錠×1回分
オルガロン点眼・点耳・点鼻液0.1%	本	2本		2本	2本		2本
クラビト点眼液0.5% 5mL	本	3本		3本	3本		3本

2013/02/22 ~ 2014/02/24

検査項目	単位	基準値	13/02/22	13/02/23	13/02/24	14/01/14	14/01/21	14/01/28	14/02/16	14/02/17	14/02/18	14/02/19	14/02/20	14/02/21	14/02/22	14/02/23	14/02/24
CEA			100	100	60	15	15										
CYFRA			75	75	45	11.25	11.25										
生体検査			50	50	30	7.5	7.5										
			25	25	15	3.75	3.75										
			0	0	0	0	0										

05/13 ~ 2014/04/01

検査種別	13/12/15	14/01/14	14/01/21	14/01/28	14/01/29	14/02/17	14/02/18	14/02/19	14/02/24	14/04/01
手術動画								手術動画		
CT(SYNAPSE)速読										
一般撮影(SYNAPS)		胸部		胸部			胸部		胸部	胸部
文書		胸部		胸部			胸部			
計画書	CHEST		CHEST							
サマリ										
手術										

2014/01/14 ~ 2014/04/01

スキャン種別	件数	14/01/14	14/01/28	14/02/16	14/04/01
同意書・承諾書	2	同意書・承諾書			同意書・承諾書
紹介状・お返事(当院へ)	1	紹介状・お返事...			
患者への説明文書	2		患者への説明...		

未読/既読の状態表示と既読化の操作

データ表示ガジェット上での未読/既読状態の表示

既読情報	データ表示ガジェット上の表現
未読	● 未読 最新 17/09/14 20:50
既読	● 既読 最新 17/09/14 20:50
既読対象外	1回前 17/09/13 21:38

The screenshot displays the CITA Clinical Finder application. The main window shows a CT scan report for a patient named Fuji Ichiro (Haigan). The report includes patient information, examination details, and a detailed description of findings. Below the text, there are two small image thumbnails labeled '1' and '2'. The interface also features a grid of larger image thumbnails on the left side, representing different views of the scan.

患者ID: 201400101 **生年月日:** 1944/01/01
患者名: Fuji Ichiro(Haigan) **年齢:** 70歳
漢字患者名: 富士 一郎(肺がん) **性別:** M
検査日: 2014/02/18 14:03:47 **オーダー番号:**
検査優先度: **依頼科:**
検査種: CT **依頼医:**
モダリティ: CT **病棟:**
部位: 胸部
造影剤:
検査目的:
検査コメント:

報告者: 富士
記入日: 2017/03/31 16:11:19

所見:
 ※肺切除術前シミュレーション画像左肺下葉S6bに、充実部を有する、34×32mm次の不整形で境界不明瞭なすりガラス病変が認められます。肺癌が疑われます。鑑別は肺炎が挙げられます。
 右肺下葉S6cに、11×8mm次の類円形で境界明瞭な充実性腫瘍が認められます。炎症性結節が疑われます。
 肺気腫が認められます。
 転移を疑うリンパ(節腫大は認められません)。
 胸水貯留は認められません。

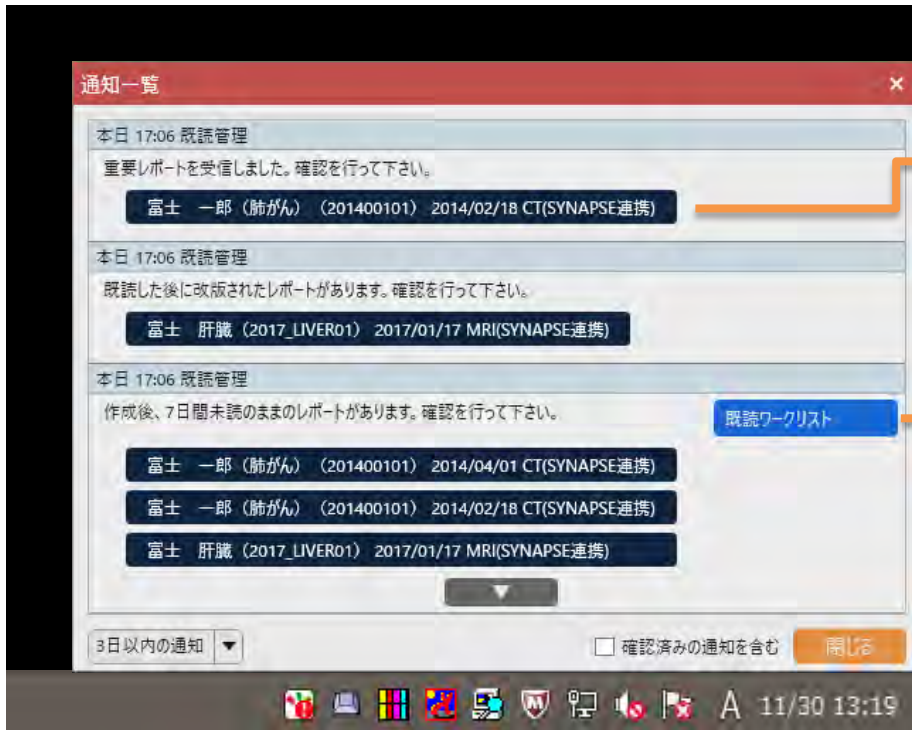
診断: ※肺切除術前シミュレーション画像

報告者メモ:

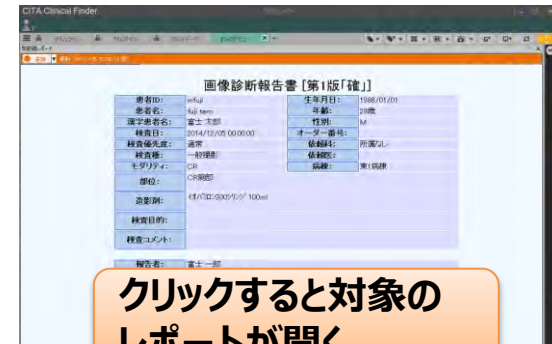
画像:
 1 2014/02/18 14:03:47
 2 2014/02/18 14:03:47

③未読レポート通知機能

- 電子カルテのログイン時に通知画面が表示されます。
- 未読の場合は、「既読になるまで通知する」設定も可能です。

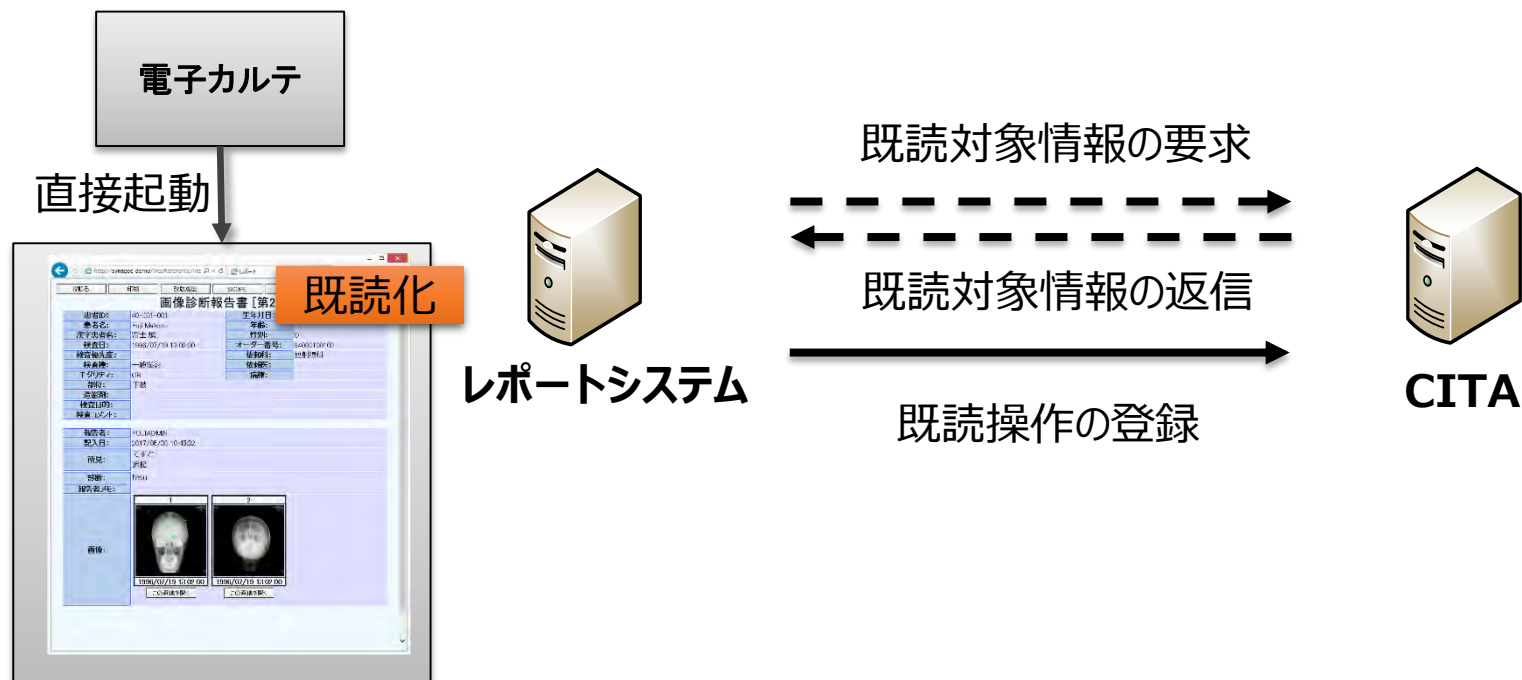


設定された期間以上、未読のまま経過したレポートや改版されたレポート、重要フラグが付いたレポートを通知



④部門システム側での既読化と情報連携

- 既存の部門システムでの既読情報を連携する事で、これまでの運用を変えずにCITAで既読/未読の管理だけを行う事が可能です。



既読操作機能を
他社システムに追加してもらう。

⑤ 管理者用画面

- 管理対象のデータを一覧化します。
- 院内全体や自診療科のレポートの未読情報を即座に把握できます。
- CSV出力を行い、診療科ごとの既読率を出すことも可能です。

CITA Clinical Finder ログオンユーザー：富士 太郎 (内科)

HOME 既読ワークリスト

既読リスト

検索条件: 検索

状態	患者ID	患者名	依頼科	依頼医	システム	データ種別	名称	コメント	検査日時	更新日時	更新者	承認日時	承認者	既読者	既読日時
未読(重要)	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 次郎	SYNAPSEレポ	CT(SYNAPS)	LIVER Dynamic 1st	重要度が高いレポ	2017/01/20	2018/03/23	富士 次郎	2018/03/23	富士 次郎		
未読(重要)	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSEレポ	CT(SYNAPS)	胸部	重要度が高いレポ	2014/02/18	2018/03/23	富士 次郎	2018/03/23	富士 次郎		
未読(重要)	2009001012	富士 花子	内科	富士 次郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	Pelvis	重要度が高い画	2012/01/20	2018/03/23	富士 太郎				
未読(改版)	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 太郎	SYNAPSEレポ	MRI(SYNAP)	LIVER EOB 1st		2017/01/17	2018/03/23	富士 太郎	2018/03/23	富士 太郎	富士 太郎	
未読(改版)	201400301	富士 三郎 (心臓)	外科	医師 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	HEART		2014/03/31	2018/03/23	富士 次郎			医師 太郎	
未読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 次郎	SYNAPSE画	一般撮影(SY)	CHEST, CHEST-2		2017/02/08	2018/03/23	富士 太郎				
未読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	LIVER Dynamic 2nd		2017/02/04	2018/03/23	富士 次郎				
未読	2017_LIVER01	富士 肝臓	外科	医師 太郎	SYNAPSE画	MRI(SYNAP)	LIVER EOB 2nd		2017/02/01	2018/03/23	富士 次郎				
未読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	胸部		2014/04/01	2018/03/23	富士 次郎				
未読	201400201	富士 二郎 (肝臓)	内科	富士 次郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	腹部		2014/02/25	2018/03/23	富士 太郎				
未読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 次郎	SYNAPSEレポ	一般撮影(SY)	胸部		2014/01/21	2018/03/23	富士 太郎	2018/03/23	富士 太郎		
未読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 次郎	SYNAPSE画	一般撮影(SY)	胸部		2014/01/21	2018/03/23	富士 太郎				
未読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	外科	医師 太郎	SYNAPSEレポ	一般撮影(SY)	胸部		2013/12/15	2018/03/23	富士 次郎	2018/03/23	富士 次郎		
未読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	外科	医師 太郎	SYNAPSE画	一般撮影(SY)	胸部		2013/12/15	2018/03/23	富士 次郎				
未読	2009001034	富士 太郎	外科	医師 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	HEAD		2012/02/02	2018/03/23	富士 次郎				
既読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 次郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	LIVER Dynamic 1st	重要度が高い画	2017/01/20	2018/03/23	富士 次郎			富士 次郎	2018/03/23
既読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	MRI(SYNAP)	LIVER EOB 1st		2017/01/17	2018/03/23	富士 次郎			富士 太郎	2018/03/23
既読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	LIVER Non-enhanced Dummy		2016/08/19	2018/03/23	富士 太郎			富士 太郎	2018/03/23
既読	2017_LIVER01	富士 肝臓	内科	富士 太郎	SYNAPSEレポ	CT(SYNAPS)	LIVER Non-enhanced Dummy		2016/08/19	2018/03/23	富士 太郎	2018/03/23	富士 太郎	富士 太郎	2018/03/23
既読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	胸部		2014/02/24	2018/03/23	富士 次郎			富士 太郎	2018/03/23
既読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	胸部		2014/02/18	2018/03/23	富士 次郎			富士 太郎	2018/03/23
既読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSEレポ	CT(SYNAPS)	胸部		2014/01/28	2018/03/23	富士 次郎	2018/03/23	富士 太郎	富士 太郎	2018/03/23
既読	201400101	富士 一郎 (肺カ)	内科	富士 太郎	SYNAPSE画	CT(SYNAPS)	胸部		2014/01/28	2018/03/23	富士 次郎			富士 太郎	2018/03/23

v2.2での新機能

- 1.研修医・指導医による既読操作
- 2.依頼医以外の医師への既読依頼
- 3.他システムから複数の既読対象医師の指定
- 4.他の医師への既読対象者の引き継ぎ
- 5.既読時のコメント登録
- 6.SYNAPSE検査の画像既読管理

レポートの既読管理機能

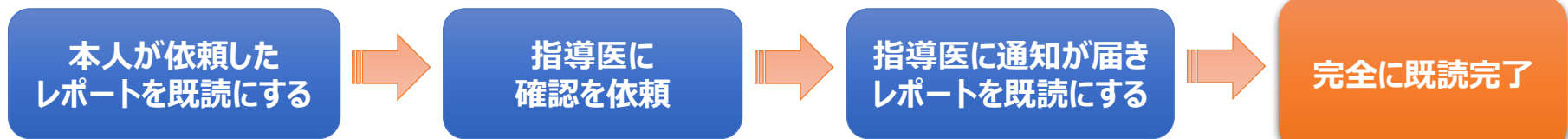
1. 研修医・指導医による既読操作



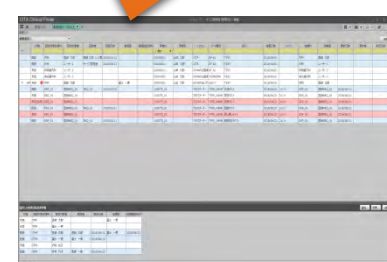
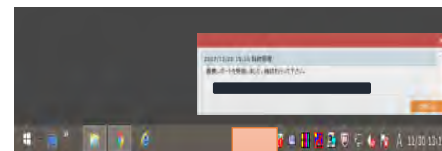
依頼医
(研修医)



指導医



指導医を選択



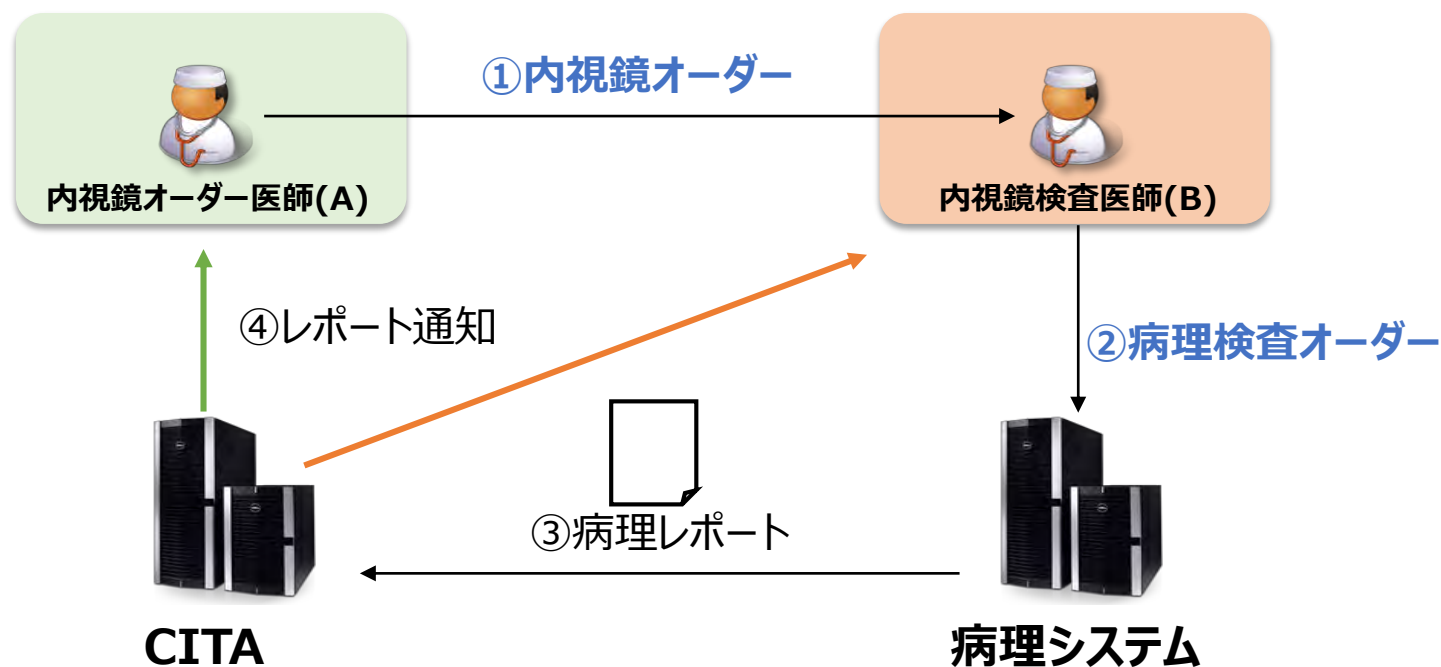
レポートの既読状態が既読済みとなる

レポートの既読管理機能

3. 外部システムから複数の既読管理対象者を指定可能

例) 病理レポートの場合

内視鏡検査のオーダー医(A)と内視鏡検査の実施医師(B)が別の場合で、B医師が病理オーダーをした場合、病理システム側で、A/B双方の医師を既読管理対象者に設定すると、CITA側でも両方の医師に未読アラートが通知されます。



病理診断報告書の確認忘れ 2019年5月

医療事故情報収集等事業

 公益財団法人 日本医療機能評価機構

医療事故情報収集等事業
医療

病理診断報告書の確認忘れ

—上部消化管内視鏡検査—

医療事故情報収集等事業
医療
安全情報

医療事故情報収集等事業

No.150 2019年5月

病理診断報告書の確認忘れ
—上部消化管内視鏡検査—

事例 1

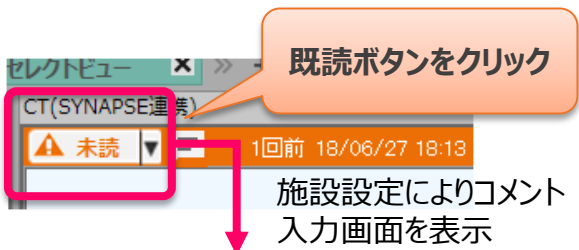
大腸癌の術前検査のため消化器内科医師は上部消化管内視鏡検査を施行し、生検を行った。外科に転科後に病理診断報告書が作成され、消化器内科医師は結果を確認しなかった。外科医師は、生検が行われていたことを把握していなかった。両診療科間では病理診断報告書の確認や患者への説明について取り決めがなかった。大腸癌の手術から4年後、貧血の精査のため上部消化管内視鏡検査が行われた。その際、4年前の病理診断報告書に胃癌と記載されていることに気付いた。

事例 2

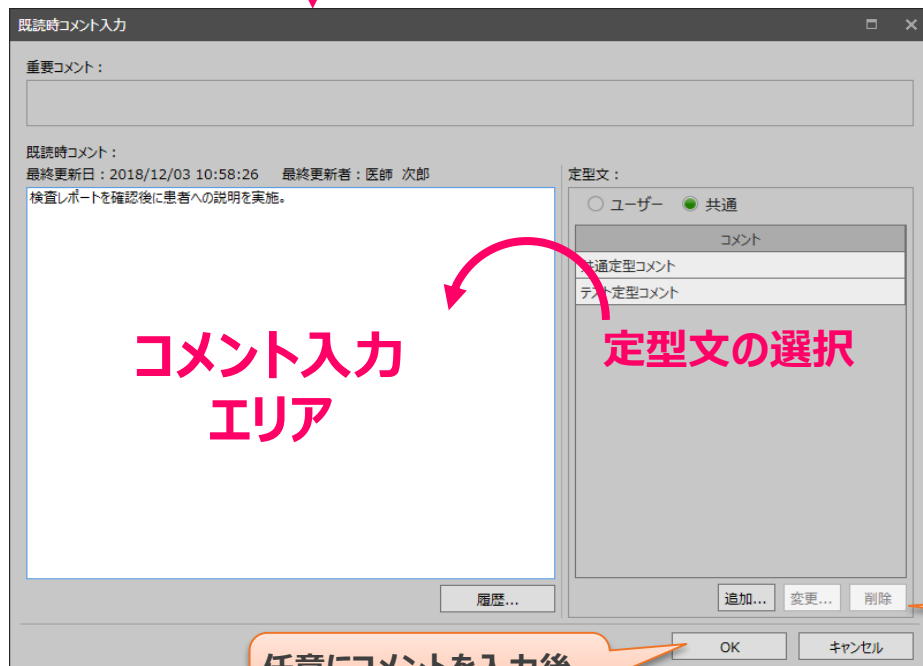
喉頭癌の患者に重複癌の検査目的で上部消化管内視鏡検査を施行し、生検を行った。病理診断報告書が作成されると、病理検査を依頼した内視鏡検査担当医に通知が出される。しかし、内視鏡検査を依頼した主治医には通知されず、病理診断報告書を確認しなかった。4年後、患者から物が飲み込みにくいという訴えがあり、上部消化管内視鏡検査を行った。検査結果を確認した際、4年前の病理診断報告書に食道癌と記載されていることに気付いた。

レポートの既読管理機能

5. 既読時のコメント登録



単にレポートの未読/既読を管理するだけでなく、実際にレポートを確認して、どのような対応を行ったかをコメントで記載し、診療記録に残すことができます。



任意にコメントを入力後
OKボタンをクリック



コメント履歴画面

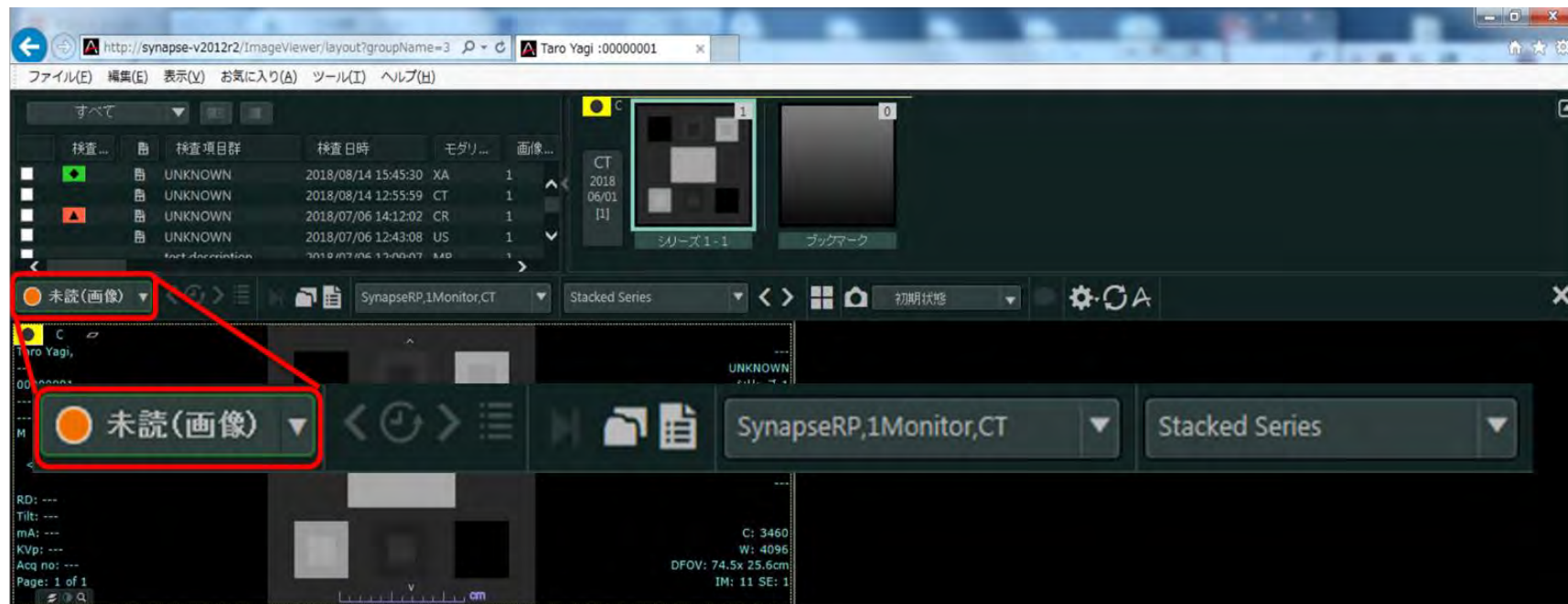
定型文メンテナンス
追加/変更/削除

登録した既読コメントは、電子カルテへと送信し、カルテ記事に含めて登録が可能です。(要電子カルテ側対応)

レポートの既読管理機能

6. SYNAPSE検査の画像既読管理

SYNAPSEの検査画像についても、検査単位での既読管理を行うことができます。
SYNAPSEのツールバーに既読管理アイコンが表示され、CITA上と同様に既読操作を行うことが可能です。



CITA V2.2では、以下の環境のSYNAPSEに対応します。

- ・ SYNAPSE V5.5以降
- ・ 標準ビュー（FS-V678）*

※製品名 SYNAPSE Enterprise-PACS
販売名 富士画像診断ワークステーション用プログラム FS-V678型
認証番号 227ABBZX00104000

CITA 既読管理機能 導入実績

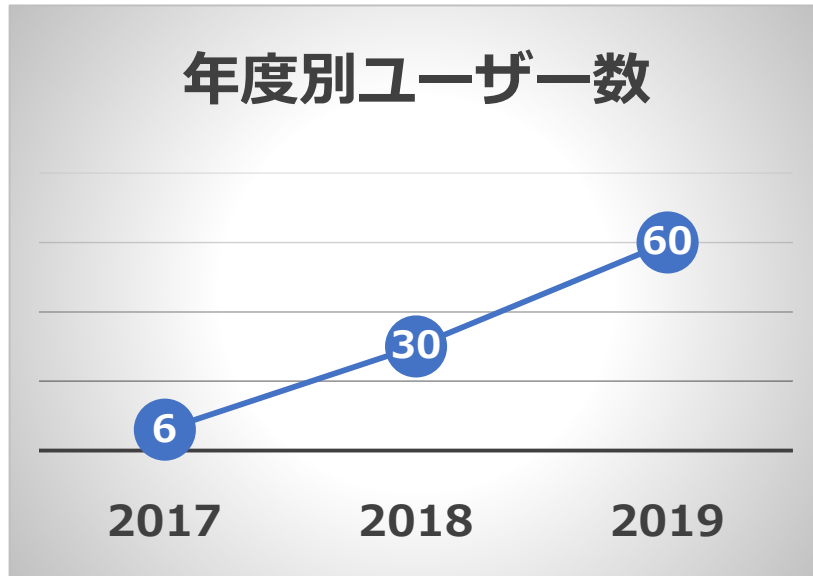
2020年1月20日現在

60

施設様

大学	14
公的 (国立, 県立, 市立等)	23
済生会	5
日赤	6
厚生連	2
労災	1
私立	9

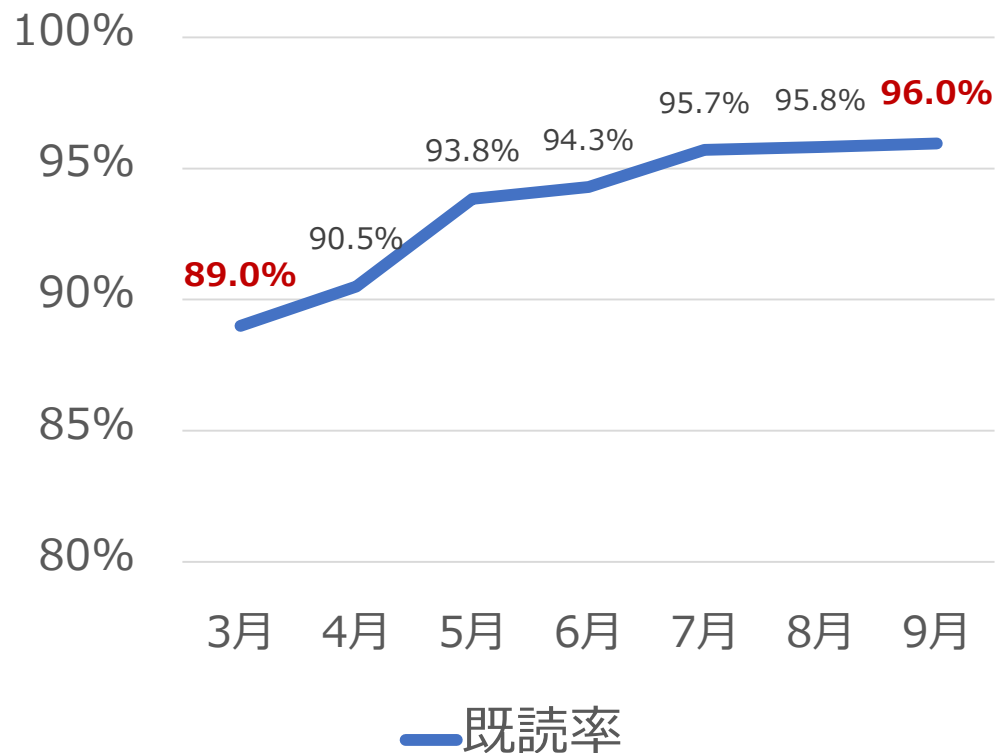
年度別ユーザー数



済生会熊本病院様事例：CITA既読管理機能 導入効果

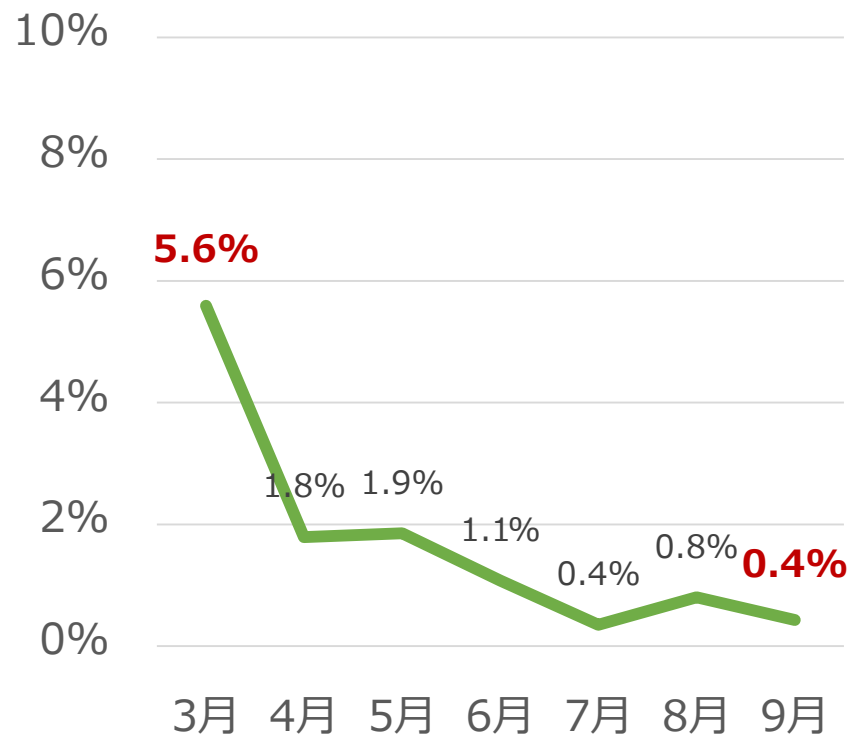
7日以内の既読率 (全病院)

2018年	7日以内未読数	7日以内既読数	総計	既読率
3月	122	987	1109	89.0%
4月	456	4340	4796	90.5%
5月	312	4756	5068	93.8%
6月	281	4643	4924	94.3%
7月	220	4907	5127	95.7%
8月	214	4900	5114	95.8%
9月	188	4457	4645	96.0%
総計	1793	28990	30783	94.2%



30日後の未読率 (全病院)

2018年	30日未読数	30日既読数	総計	未読率
3月	62	1047	1109	5.6%
4月	86	4710	4796	1.8%
5月	94	4974	5068	1.9%
6月	53	4871	4924	1.1%
7月	18	5109	5127	0.4%
8月	41	5073	5114	0.8%
9月	20	4625	4645	0.4%
総計	374	30409	30783	1.2%



機能仕様標準化の動向：厚労省 事務連絡

事務連絡
令和元年12月11日

各
都道府県
保健所設置市
特別区
衛生主管部（局）御中

厚生労働省医政局総務課医療安全推進室

画像診断報告書等の確認不足に対する医療安全対策の取組について

医療機関における画像診断報告書等の確認不足を防止するため、これまで、「画像診断報告書等の確認不足に関する医療安全対策について」（平成29年11月10日付け医政局総務課医療安全推進室事務連絡）及び「画像診断報告書等の確認不足に関する医療安全対策について（再周知のお願い）」（平成30年6月14日付け医政局総務課医療安全推進室事務連絡）により注意喚起を図ってきたところです。

しかし、その後も公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する医療事故情報収集等事業において同種の事案報告が続いており、一般社団法人日本医療安全調査機構においても平成31年4月に医療事故の再発防止に向けた提言第8号「救急医療における画像診断に係る死亡事例の分析」が公表されました。

こうした状況を踏まえ、今般、平成30年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による「医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究」において取りまとめられた研究報告書（別添1）より、今後、画像診断報告書等に記載された重要所見の見逃しを防止するために留意して頂きたい組織的な対応について、下記のとおり整理しました。なお、この組織的な対応については日本学術会議臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会から令和元年9月に公表された「CT検査による画像診断情報の活用に向けた提言」（別添2）においても言及されております。また、医療機関において工夫されている取組についても、あわせて情報提供いたします。

つきましては、貴管下の医療機関、関係団体等に周知いただくようお願いいたします。

記

- 報告書に記載された緊急度の高い所見や重要所見を受けて必要な対応がとられるためには、組織的な伝達体制や確認体制を構築することが推奨される。

別添1

平成30年度地域医療基盤開発推進研究事業

「医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究」

報告書資料

研究代表者：

松村泰志（大阪大学医学系研究科・医療情報学）

研究分担者：

〔医療安全担当〕

中島和江（大阪大学医学部附属病院・クオリティマネージメント部）

北村温美（大阪大学医学部附属病院・クオリティマネージメント部）

後 信（九州大学病院・医療安全管理部）

中村京太（横浜市立大学附属市民総合医療センター・医療安全管理学）

滝沢牧子（群馬大学医学部附属病院・医療の質・安全管理部）

〔医療情報システム担当〕

武田理宏（大阪大学医学部附属病院・医療情報部）

大原 信（筑波大学・医療情報マネジメント学）

石田 博（山口大学・医療情報判断学）

美代賢吾（国立国際医療研究センター・医療情報管理部門）

松本武浩（長崎大学医歯薬学総合研究科・医療情報学）

岡本和也（京都大学医学部附属病院・医療情報企画部）

澤 智博（帝京大学・医療情報システム研究センター）

池田和之（奈良県立医科大学附属病院・薬剤部）

宇都由美子（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科・医療システム情報学）

〔画像診断担当〕

田中 壽（大阪大学医学部附属病院・放射線部）

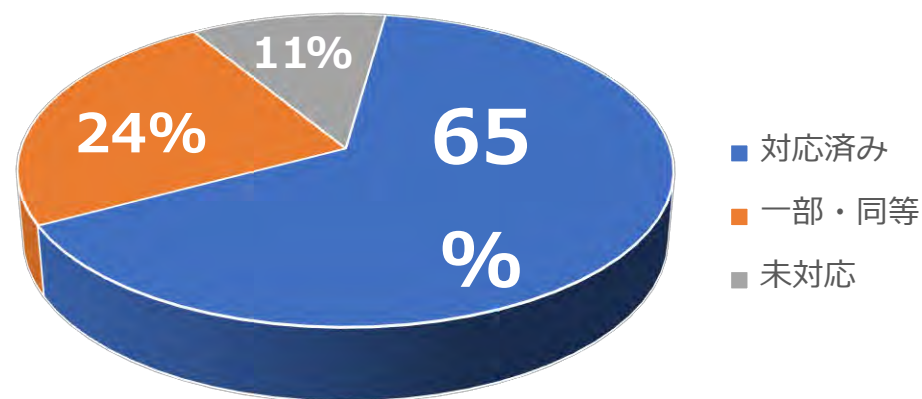
玉本哲郎（奈良県立医科大学附属病院・医療情報部）

研究協力者

井田正博（荏原病院・放射線科）

全100項目中、オーダー機能・レポート作成機能部分を除く 既読管理・レポート表示関連等 80項目の内訳

対応済み	52項目 (65%)	} 89%に 対応済み
一部対応 又は 同等機能で対応済み	19項目 (24%)	
未対応(運用に支障のないもの)	9項目 (11%)	



まとめ



経営支援

質・安全性の向上

働き方改革

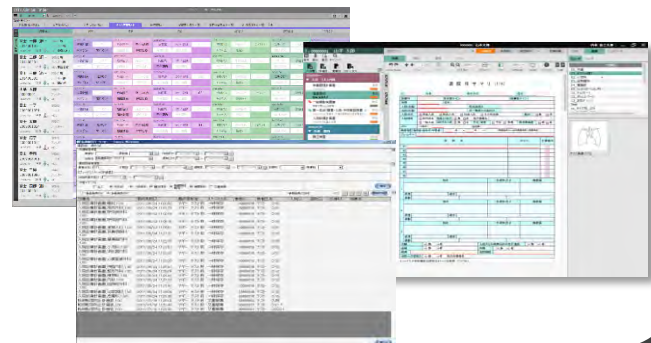
保健指導対策
機能評価/JCI対策

入退院支援
(病床回転率アップ)

レポート未読管理

チーム医療推進

文書作成/
業務効率化



内部統制・ガバナンス強化

FUJIFILM
Value from Innovation

